

株主・ステークホルダーの皆様へ

年度末見通しの修正開示について

本日、平成23年3月期の業績見通しを発表いたしました。売上高6億5千万円、営業損失1億8千万円、経常損失2億0千万円という見通しとなっております。株主の皆様を始め、ご支援いただいている取引先の皆様、多くの関係者の皆様のご期待に反する期末見通しの修正開示を発表せざるを得ない状態に立ち至ったことに対し、大変申し訳なく、深くお詫びを申し上げます。

当社の売上は大手社会インフラ系企業様からの受注を基盤として、新規の受注を積上げて構成されております。第2四半期終了時点までは、年初計画に概ね沿った経緯をたどっており、第3四半期からの営業活動に期待をかけて居りました。しかし、第3四半期に入り顧客各社様の経営環境の厳しさを反映して、この基盤となる第4四半期の売上に対応する、受注の減少と利益率の低下が予測されることともに、新規受注として見込んでおりました大型受注案件数件の年度内受注・売上が難しい状態となったため、既開示の見通しを大幅に下方修正することとなりました。

今年度は、これまで当社の経営環境の好転を阻んでいた経営不振の子会社各社を切り離し、ビーマップ単独の事業成績で収支を安定すべく自社の事業環境を整えてきましたが、受注環境の変化の把握に遅れ、それに対する対策が後手に回った結果、年度末の売上見込を大幅に後退させ、この度の発表に繋がったと反省しております。

新年のご挨拶でも申し述べましたが、今年度進めてきた積極的な事業展開を目論んだ施策につきましては、当初の計画よりは若干遅れておりますが着実に関係する売上と利益率の向上に成果が反映してきており、平成23年度の売上に貢献できると思っております。今年度の年度末までは、残された日月は限られて居りますが、更に、全力で年度内の売上と利益の確保に努めて参ります。

ここに今年度末見通し悪化に対する修正開示のご報告とともに、お詫びを申し上げます。

なお、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

平成23年1月28日

株式会社 ビーマップ

代表取締役社長 浅賀 英雄